

2022 年度 第 2 回 CTK 放送番組審議会 議事録

2022 年 12 月 21 日

14 : 00～15 : 30

ケーブルテレビ可児 会議室

【出席委員】

委員長 海道 清信 (名城大学都市情報学部 名誉教授)
副委員長 伊藤 佳林 (可児市 NPO 協会 職員)
委員 今井 悠一朗 (可児青年会議所 理事長)
大脇 慶二 (株式会社サカエ屋 代表取締役)
田中 由美子 (御嵩町総務部企画課秘書広報係 主査)
細野 裕子 (中山道案内人倶楽部 会長)

(敬称略、五十音順)

【CTK】

谷口 公一 (代表取締役社長)
石川 浩紀 (取締役兼 ICT ソリューション部長兼メディアサービス部長)
長尾 武彦 (メディアサービス部担当部長)
岸野 直美 (メディアサービス部メディアグループ長)
丹羽 俊一 (メディアサービス部メディアグループ) (記録係)

1. 開 会

事務局：皆様ご出席いただきましてありがとうございます。2022 年度第 2 回放送番組審議会を始めさせていただきます。それでは開催にあたりまして社長の谷口がご挨拶をさせていただきます。

2. 挨 拶

谷口社長：お世話になります。日頃は番組審議会の委員としてご理解ご対応いただきまして誠にありがとうございます。本日は年末のお忙しいところ、寒い中お越しいただきましてお礼申し上げます。本日はご案内の通り、見ていただいた番組について忌憚のないご意見をいただきたいと思います。
新しい事として今年の夏ごろから月 1 回、コミチャンとインスタグラムを連動した同時生放送を始めました。これまで、ぎふワールドローズガーデンや産業フェア、可児駅伝などで中継しました。また、来年 1 月に行われる成人式では参加

者にインタビューして生の声を配信しようと思っています。

また、今年の4月から始めた「地域・人のwaプロジェクト」ですが、だんだん人の輪が広がりつつあり、ご好評いただいているので今後も続けていきたいと思っています。その取り組みの1つとして社屋の前の駐車場横に畑をつくりました。現在、ホウレン草を育てており、進展があれば番組で放送したいと考えています。新年の番組ですが、CTKでは残念ながら生放送はしませんが、年末に収録という形で従来のレギュラーコーナーではなく正月らしい番組内容にしました。MCが振袖を着たり、正月らしいゲームをしたりします。機会がありましたら正月に見ていただければありがたいです。本日はよろしく願いいたします。

3. 議事

(1) 視聴番組についてのご意見・ご感想

- ①「地域だより ～みんなの元気届けます！～（可児ホークス）」
- ②「輝け！笑顔の子どもたち（西可児中学校 協友祭）」
- ③「け～ぶる GiRLS の 私のまちのお店自慢（天然温泉 三峰）」
- ④「防災訓練 2022 」

①地域だより ～みんなの元気届けます！～（可児ホークス）

事務局：ソフトボールに目を輝かせる人たちを紹介しています。それではご覧いただきたいと思います。

<視聴ご意見>

委員長：皆様のご意見やご感想について聞かせていただければと思います。

先に私から。年齢別の4チームすべてが県大会優勝とありました。チームの一部だけ強いというのは分かりますが、それぞれが優勝して全国大会に出場しているのはすごいと思いました。

また、若い人たちのジュニアチームを作ろうとしていることが紹介されていましたが、次世代への継承を考えていることもすごいと思いました。全体として元気が出る番組だと思いました。

委員：委員長の意見に同感です。私自身、野球とソフトボールの違いが分からなかったですが、説明があり納得しました。私の地元には野球チームしかありませんが、ソフトボールは誰でもできるスポーツだと思いました。本当に皆さんの笑顔に元気づけられ

ました。

委員：皆さんがソフトボールに打ち込む様子を見て、大人になっても楽しめるもの、頑張れるものがあるのはいいことだと思います。ジュニアチームができるということで、そちらも特集などで取り上げるといいと思います。

委員：組織づくりがすごいと思いました。Jリーグが発足した時のように下部組織から積み上げていく、そういう事を最初から頭に入れて活動しているのは本当に素晴らしいことだと思います。

委員：可児市にソフトボールが強いチームがあることを知らなくて、この番組で知ることができました。趣味を本気でやっている人たちを見て、すごく楽しそうな気持ちが伝わってきました。次が見たくなるような番組でした。

委員：皆さんが言われた通りいい番組でいい取り組みだと思います。ジュニアチームは「かにさんくらぶ」で募集が出ていたので知っていました。番組で紹介されるかドキドキしながら見ていましたが紹介されていたので良かったです。可児市の中学校の野球部もだんだん少なくなってきていて、そういう人たちが今後もずっとやっていくためにソフトボールがあるのはとてもいい取り組みだと思います。この「地域だより」で可児ホークスに焦点を当てたCTKさんはすごいと思いながら見ていました。

委員長：可児ホークスの名前の由来が紹介されていなかったもので、名前の由来が分かるとよかったです。また、団体競技ですが例えばホームラン王など個人ですごい人がいたら、そういう事も紹介すると面白いと思います。

委員：ソフトボールをやりたい人やこのチームの存在は知っているけど、知らない人ばかりで入りづらいと思っている人がいると思います。このように番組で紹介されると、チームにどんな人がいるのか分かるので入りやすくなると思います。そういった情報にもなるのでいいと思いました。

委員：逆にもっと放送していかないと、こういったスポーツは下火になってしまうのではなにかと心配になりました。

②輝け！笑顔の子どもたち（西可児中学校 協友祭）

事務局：体育祭の様子をご覧くださいます。一喜一憂する子どもたちの表情を複数のカメラ

を準備して多面的に伝えております。

<視聴ご意見>

委員：元気が出る内容で見入ってしまう番組でした。

教室で円陣を組むシーンで名前が見える生徒がいたのが気になりました。

委員：親御さんが入っていけないところ、例えば準備や練習などの様子を紹介すると家族は見るのではないかと思います。なので、本番当日だけの撮影ではなく準備や練習の様子も撮影するのいいと思いました。いかがでしょうか。

事務局：おっしゃる通りです。番組によって社員が撮影から編集まで全部制作するものと、外部の制作会社にお願いしているものがあり、この番組は外部にお願いしています。予算などの関係もあり何回か取材に行くケースもあれば1回しか行けないケースもあり、担当者と制作会社でやり取りをしながら制作しています。

委員：久しぶりにこういった大会ができて良かったというのが率直な印象です。

それから子どもたちのガッツポーズがテレビの影響なのか、色々な形の自己表現をみんながそれぞれしていて、すごく大事な事だと思いました。

最後の涙のシーンは一生懸命やった事が伝わりました。

また、黒板に描いてあった龍のアートはすごいと思って、描いた人を取り上げて何かおもしろい事ができると思いました。

委員：優勝に向かって全員が頑張る姿を心の中で応援しながら見ていました。子どもの笑顔にはいつも元気をもらえます。地域の人たちもこのような番組を楽しみにしていると思うので、これからも放送していただきたいです。

委員：協友祭って何、と思いながら見始めたら途中でその意味をお話してくれてワクワクしながら見られる構成でした。運動の苦手な子にも役割があり全員で楽しめる協友祭だと見ていて思いました。みんなが楽しめる活動内容を先生の間でも協議してほしいので、各学校でこの番組を見てほしいと思いました。

委員長：各団の分け方の説明があるとよかった。

委員：他の学校も取材に行っているのですか。

事務局：可児市と御嵩町の小、中学校を紹介していますが決まった順番はありません。放送は1年に12回なので同じ学校ばかりにならないよう配慮しています。学校によってはこの行事に来てほしいとか、逆に今月は何も取り上げてほしいものがないということがあるので、何か月か先まで学校のご要望を伺いながら担当者が調整しています。また、学校の番組は月に1本しかないので、かにみた！の週刊ニュースで小学校の運動会の様子を紹介するなど、ニュースでフォローする形なるべくバランスよく紹介できるような工夫をしています。

③け～ぶる GiRLS の 私のまちのお店自慢（天然温泉 三峰）

事務局：この番組は隣のケーブルテレビ「おりべネットワーク」と共同制作しています。ただ、共同で制作するときもあれば、それぞれ単体で制作する時もあります。今回は単体で制作したもので温泉レポートをしております。

<視聴ご意見>

委員：リポーターの種田さんに温泉レポートはどうでしたかって聞きたくなりました。本当に堂々としていたと思います。また、きれいにタオルを身にまとってすごいと思いました。温泉に入れた喜びもリポートで伝わってきました。最後のところで、インタビューされた三峰の人と種田さんの会話が字幕で出ていて、あそこがまた良かったです。話が変わりますが、「け～ぶる GiRLS」のCMが流れるといつも種田さんがどこにいるのか探すので、親近感が持てるようになったと思います。

委員長：「け～ぶる GiRLS」は何人いるのですか。

谷口社長：27人です。東海4県のケーブルテレビ局から希望した局だけですけど1人ずつ選任します。ほとんどが社員です。

委員：温泉の気持ちよさがよく伝わってきました。最後の字幕は和む感じがすごく好きです。食事処の紹介がなかったのでお勧めのメニューとか見たいと思いました。

委員：本当に純粋に行きたいと思う番組でした。私はあまり温泉に行きたいと思わないのですが、これを見たら1回行ってみたいくなりました。

委員：可児市の方は三峰の存在は皆さん知っていると思いますが、行ったことがない人も多いと思います。店内の様子をこの番組を見て知ることができるのでよかったです。

委員：三峰はよく行きますが良さがとてもあらわれていました。途中テロップで、タオルは撮影のため着用している、とフォローしてありました。2年ぐらいこの協議をやっていますが色々と改善されていて、これまでの3つの番組は何も言うことがなくて、民放のようにすごく見やすいです。テロップも全部分かりやすくよかったです。可児と御嵩が盛り上がっていけばいいなと思いました。

④「防災訓練 2022」

事務局：1時間ほどの番組ですがその中から生中継の様子などをご覧くださいます。

<視聴ご意見>

委員長：「災害現場でのレポート力の向上と多元中継を行う放送技術の確認」と説明が書いてありますが具体的にもう少し補足していただけますか。

事務局：レポート力の向上につきまして、実際に災害が起きた時、種田だけにレポートさせることは難しく、他のスタッフでも対応できるよう現場で情報を集めて工夫して話せる能力、現場力を身につけることを目的としています。
多元中継を行う放送技術の確認につきまして、分かりづらい表現ですがCTKで複数箇所から中継を行う場合、スタジオ側で配線のつなぎかえなどの作業が必要になるため、そういった作業の確認も合わせて行っています。

委員長：わかりました。60分の番組の中で現場からの中継と録画したものを放送する場面がありましたが、録画したものをすぐに編集して放送するというスピード感がすごく頑張ったと感じました。

事務局：生中継ですと1カ所からしか放送ができないため、事前に撮影、編集した映像も含めることで、なるべく色々な訓練を見ていただけるように工夫しました。
また災害時に可児市、御嵩町に災害対策本部ができた時に現地から生中継できるようCTK社屋と可児市役所と御嵩町役場それぞれの間には光ファイバーの専用線を引いています。それ以外に番組の中でもありました桜ヶ丘地区センターなど生中継用の光ファイバーが引いていない場所からでも生中継ができる装置を導入しました。以前は小型の中継車を所有していましたが経年劣化とランニングコストがかかることから無くし、代わりに携帯電話の回線を使用して生中継ができる装置を導入しました。同様の装置は地上波のテレビ局でも使われています。

委員長：実際に災害が起きた時の体制はどうなっていますか。

事務局：警報が発令されたら出社人数や作業内容を決めて対応する基準を作っていました
が、社員の入れ替わりや若手社員が増えてきた事もあり現在、基準を見直していま
す。警戒レベルに応じて対応する内容に変更しました。
また、皆さまご覧いただいたことがあると思いますが画面の端にテロップで情報
を流すL字放送もしています。このL字放送はリモートで自宅からでも作業でき
るシステムになっていまして、夜間や休日でも行政や警察、電力会社、鉄道などの
情報を集約してL字放送を出すことができます。

委員長：災害時は全国放送もいいが、身近なところで何が起きているか、どこで起きている
か、どう対応しているかは貴重な情報です。

委員：訓練だからか、スタジオで放送する時ヘルメットはかぶらないのですか。

事務局：会社にはヘルメットが準備してあります。今回の訓練では協議の結果、かぶらない
ことにしました。

委員：桜ヶ丘地区センターの中継で音声が悪化したのはなぜですか。

事務局：中継の装置が携帯電話の電波を使っている関係で電波状況によっては映像や音声
が悪化することがあります。現場の近くにいるたくさんの方が携帯電話で同
時に電話すると、同じようなことが起きてしまう可能性があります。地上波のテレ
ビジョンでも同じシステムを使っています、悪化することがあります。このため、光フ
ァイバーを引いていまして、災害対策本部はつながるようにしています。

委員：災害対策本部でのレポートの場面で「ズーム (Zoom)」と言っていました「ズーム」
は一般的な言葉でいいのでしょうか。商品名とかサービス名なので、「双方向の
通信サービス」などに言い換えたほうがよかったですと思います。生放送なので言葉選び
は難しいかもしれませんが「ズーム」という言葉が気になりました。

委員：前の3つの番組と比べると仕方ないですが面白くなかったです。しかし、災害は普段
は頭から忘れてるので、このように番組で放送することで思い出すので必要な番
組だと思います。

事務局：番組自体の目的としては防災訓練を放送することによって、市民の皆さんの防災意

識を高めていただくという部分がメインになっています。

委員：60分の番組を10分にまとめているので全体として判断できませんが、イベントの紹介なのか報道なのかははっきり分かりませんでした。報道であれば現場の人の声をもっと取り入れたほうが視聴者にとっては受け入れやすいと思いました。ちなみに「FMらら」とさんと共同で放送することはありますか。

事務局：想定はして、「FMらら」とは協定を結んでいます。ケーブルテレビの電線が切れてしまうとテレビが見られなくなってしまうので、その時はCTKの社員が「FMらら」の応援に入り、ラジオで災害放送をしようという取り組みをしています。訓練も行っていてCTKの社員がアナウンサーになってラジオの放送もできるようトレーニングしています。また、市長のコメントなどCTKの中継システムを通して映像から音声を取り出して「FMらら」に提供し、ラジオで生放送した実績もあります。

委員：皆さんの防災意識を高めることを目的に行うということで、このような番組を放送してくれるとありがたいと思っていたところでした。

委員：いつ地震が起こるか分からないので、町民の隅々までどのように情報を提供するかケーブルテレビや行政だけでなく受け取る町民側もしっかり考えなければいけないと感じていましたが連携が取れていてうれしく思いました。

(2) CTK 11ch・12ch の番組全般についてのご意見・ご感想

委員：1週間同じ内容を放送していますが、見逃してしまうことがないのでいい。また、同じ番組でも何回も見るとにより深く内容を感じることができると分かりました。私自身、尾木ママの講演会の様子は欠かさず見えています。他の人に「かにさんくらぶ」の折り込みにリーフレットが入っていることを伝えても知らない人が多いので地域の声で広げていきたいと思えます。

委員：「いきマイ+」ですが、放送を見たいけど子育てで忙しくいつも見られないという母親の声を聞きます。7時、12時、17時、19時と忙しいタイミングなので放送時間帯を変更してほしいという意見があります。YouTubeで配信しているとは伝えてあります。

事務局：例えばどのあたりの時間帯が一番いいのでしょうか。

委員：寝かしつけた後や、15時くらいに幼稚園から帰ってくることを考えると13時30分とか14時あたりでもいいと思います。ちなみにYouTubeを見てもらうことはすすめてもいいのでしょうか。

事務局：はい。可児市としてはYouTubeを広めていきたい考えがあるようです。

委員：見方そのものが変わってきていると感じます。私自身、テレビよりYouTubeを見る時間のほうが長いです。

委員：オンタイムで見なくなっているのが、アーカイブとか見逃し配信で見たり録画で見たりしています。

谷口社長：来年度に「CTKアプリ」というスマホのアプリを導入しようと考えています。そこで番組が見られるようにしようと思いますが、CTK加入者の人はフルバージョンで見られて、加入していない人は一部しか見られないような仕組みになると思います。

(3) 12chの年末年始特別編成について

事務局：皆様のお手元に2022年12月と2023年1月の番組表をお配りしました。
年末年始は通常と編成が少し変わっています。
※2022年12月と2023年1月のリーフレットを配布。簡単に紹介

4. 報告事項

事務局：前回7月に開催して以降、本日までの間に総務省に報告が必要となる放送事故はありませんでした。
次回の放送番組審議会の開催は、来年3月を予定しております。
本日はご出席いただきありがとうございました。

以上